

風格、魅力、活力ある岡山に

昨年4月、政令指定都市に移行した岡山市。中四国地域の拠点都市として風格、魅力、活力あふれる都市にするには何をすべきか。「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」「中四国をつなぐ総発着の拠点都市」を掲げる高谷茂男岡山市長を囲み、未来を担う次世代の代表として女性版・雑貨販売のクロスカンパニー社長の石川康晴氏(39)、うらじゃやフュージョン岡山にボランティアスタッフとして参加する岡山大学3回生の山田光太郎氏(20)が、エネルギンユに語り合った。(文中敬称略)

岡山を元気に

岡山が政令指定都市になって1年半。高谷市政になって5年がたった。高谷 就任して最初に取り組んだのは財政改革。職員の採用凍結などを進めた結果、年間約60億円の削減効果を生み、借金も2004年度に比べて766億減った。岡山市は、中国をのり交通結節点でありながら、広島と神戸の間で埋もれていた。今後は岡山と神戸の間で埋もれていた「潜在能力」を生かしたまちづくりが課題だ。

石川社長率いるクロスカンパニーは業績が好調で、市街地の清掃や植樹など環境活動にも積極的だ。石川 おかげさまで今期は売上高が400億円に届く見通し。環境活動については、以前、本社のある北区幸町で清掃に参加したことが、ネットホテルやたばこのごみばかりで、もしかしたらうちの社員やパレル業界の若い販売員たちが捨てているのではと考えた。そこで06年から社員を中心に「庭園岡山エコク



出席者
岡山市長 高谷 茂男氏
(株)クロスカンパニー代表取締役社長 石川 康晴氏
岡山大学 マatchingプログラム(MP) コース3回生 山田 光太郎氏

リーナス」というボランティア清掃団を作った活動家だ。目を追うように賛同する企業・団体が拡大し、現在は学生、社会人、市職員など約700人の集団だ。今後はあゆむ市町村で同じ日に官・民・学生が一体となって活動し、1万人参加したげと目指している。もう一つは、倫理観の強い県民性、市民性になることを目指している。

高谷 美しい心の岡山人育てる

石川 団体の枠超えた清掃活動

また、今年7月には植物生態学者の宮脇昭彦氏(岡山大学名誉教授)から、CO削減のために命を守るために木を植えるのだと教わり、瀬戸内市の当社物流センターで植樹祭を開き、苗木2000本を植えた。さらに4月には中国・内モンゴル自治区のホルン砂漠でも植樹を開始した。以前は草原だった場所が羊の放牧が原因で砂漠化している。この羊肉が日本に輸出されているものだが、貧困エリアを犠牲にして豊かな生活を営んでいる私たちが、草原を取り戻さなければいけないと気づき、社員全員が同じ思いで取り組んでいる。

山田さんが夏祭り「うらじゃ」にJリーグのファンクラブ「岡山スタジアム」に参加するようになった。山田 生まれてからずっと岡山に住んでいるが、高校までは岡山に魅力を感じていなかった。大学に入り、先輩の焼き肉を食べるという誘いにつられて「うらじゃ」のボランティアに参加した。最初は、最初に掃除を見たとき「岡山ってこんなに熱いんだ」と感動し、「うらじゃが好きになった。それからはいろいろなことに目をつけてみたい」ともあり「サッカーが好きだった」ともあり「フュージョン岡山のスタッフにも関わった」。

岡山市長 高谷 茂男氏



たかや・しげお 玩具卸・販売の会社社長。昨年閉業した倉敷市ボリ公園運営の第三セクター社長などを歴任。2005年の岡山市長選で初当選した。岡山大学経済短期大学部卒。総社市出身。

(株)クロスカンパニー代表取締役社長 石川 康晴氏



いしかわ・やすはる 大手パレルメーカー勤務を経て1994年、クロスカンパニーを創業。99年、自社ブランド「アースミュージック」を創設し、SPA A(製造小売)に転換。岡山大学経済学部在学中。岡山市出身。

岡山大学マatchingプログラムコース3回生 山田 光太郎氏



やまだ・こうたろう 岡山県立岡山大安寺高校卒。2008年からうらじゃのボランティアスタッフとして、09年からフュージョン岡山のボランティアスタッフに参加。趣味はサッカーなど。岡山市出身。



岡山夏の風物詩「うらじゃ」。今年は過去最多の約6000人が参加した。

岡山の未来へ

今後岡山をさらに元気にするために何が必要だろうか。石川 現在、岡山大学経済学部で学んでいる。今までの自分を見直す機会があった。自分自身も、若いうちはお年寄りもみんなが一つになることが大事だと思っていて、それには思いやり、感謝、助け合い、おもてなしの気持ちが欠かせない。みんなが心を開くことが必要だ。

高谷 今までのわれわれの目線では考えられなかった。隠れた岡山の力を発揮できるような人を探して欲しい。岡山は市や県がやらなければならない。行政として応援したい。地元企業や上の世代の人たちの応援も不可欠だ。

山田 若い世代に目を向けられてくれるのはうれしい。フュージョン岡山のスタッフとして木村正明社長と話す機会があるが、興味深く聞ける。今後は、僕たちも受託された方とコミュニケーションができるような機会をぜひつくりたい。

高谷 市民の意見を行政に反映 山田 熱くなれるもの見つけて

高谷 おっしゃるとおり、これから50年先をどうにか住みたいという思いを届けることが、何よりも行政任せではなく、将来のことは行政の中で住民ができる部分を持つてもらう必要がある。山田の食や物など誇れる資源にプラスにおも

力を入れていく。現在96学区・地区のまちづくりをどうにか住みたいという思いを届けることが、何よりも行政任せではなく、将来のことは行政の中で住民ができる部分を持つてもらう必要がある。山田の食や物など誇れる資源にプラスにおも



自分たちの地域は自分たちの力で、子どもたちの登下校を見守る安全・安心ネットワークの住民ら

なことを教わり、ここまで成長できた。これからは後継者に、何をかしてあげようか、と石川に語り、石川は水

高谷 今回、時代の違うお二人と話をしても、ますます地域をちゃんと育てていかねばと感じた。岡山の活性化のために、若い人も年長者もそれぞれの意見を聞いてまちづくりをしなければいけない。そして、男女関係なく、いろいろな年齢層の人から「岡山のまちをどうにかしたい」という思いを行政に反映できるように取り組んでいかねばならないと思う。